

編集発行：山口県立大学同窓会桜圃会

〈事務局〉〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX083(925)7485 振替口座01570-2-25095

メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

印刷：(株)マルニ

O u h o k a i - K a i h o u

桜圃会 会報

Vol. 60

平成24年3月1日発行



平成23年5月21日 山口県立大学創立70周年記念式典 於桜圃会館



式典後のホームカミングデー

桜圃会は

大学発展の一翼に

山口県立大学学長・理事長 江里健輔



桜圃会の皆様、お変わりございませんか？

本学は「地域貢献型大学」を旗印に、「誇り」と「伝統」のもと、地域マインドを持った人材育成に努めています。昨年10月22日週刊東洋経済が発表した「本当に強い大学2011」で、本学は全国大学で文系10位、理系2位にランク（中四国では理系1位、文系2位）されました。

そのような中で、本学は昨年70周年を迎え、桜圃会の皆様には多大なるご支援を頂き、改めてお礼申し上げます。本学は平成18年独立行政法人化され、この3月で第1期中期（6年間）が終わり、この4月より第2期中期に入ります。それに伴い、全学あげて第2期中期計画策定に取り組んでいます。桜圃会福田百合子会長をはじめ役員の方々からいろいろなご意見、アドバイスを賜り、桜圃会の皆様の本学への思い、

期待感をひしひしと感じ、感謝の気持ちで一杯であります。

第2期中期計画では第1期が法人運営に必要な体制・仕組みづくりを基本姿勢として運営してまいりましたが、これを踏まえて、教育・研究や地域貢献について、目に見える具体的な成果（実践力を高める教育の推進、学部学科間連携の推進、体験型教育の推進、論文および国際共同研究発表の推進、関係団体との連携強化など）を最重点として、獨創性、行動力ある人材の輩出を目指しています。

「存在感ある大学」、「きらめく輝く大学」として、更に発展するには会員の皆様の支援なくして達成できません。

辰年は景気がよくなると言われていますが、皆様におかれましてはすばらしい年であるように、祈念申し上げますとともに、山口県立大学発展の一翼として、これからもご支援賜りますようお願い申し上げます。

創立七〇周年 記念事業について

山口県立大学事務局長
小田由紀雄

昨年は、山口県立大学が創立七〇周年の節目の年を迎えたことから、五月二十一日の記念式典をはじめとする記念事業を開催いたしました。桜園会の皆様のおかげで、無事、諸事業を終了することができました。物心両面にわたるご支援、ご協力に心から感謝を申し上げます。特に、記念事業のための募金につきましても、目標額を大幅に上回るご芳志を賜り、改めて、桜園会

の皆様お一人おひとりの、本学に対する熱い想いとパワーを感じたところでありたい。この紙面をお借りして、心から敬意を表しますとともに、厚くお礼を申し上げます。



講師 吉川 真先生

さて、記念式典では、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所の吉川真先生をお招きし、「帰ってきたハヤブサ、そして未来へ」と題して講演いただきました。学生達にも、「どんな困難の中でも決して諦めることなく目標達成に向けて努力する、その大切さを

学ぶことができた」と好評でした。

また、記念事業では、教育研究や修学支援、地域貢献の推進のさらなる充実に必要な財政基盤を強化するため、新たに「さくらの森夢基金」を設置したところであり、記念事業に係る収入から支出を差し引いた剰余金全額をこの基金に積み立て、今後、本学の発展に繋がるよう有効かつ大切に使用させていただくこととしています。

以上、創立七〇周年記念事業のお礼を申し上げます。ここに、左記のとおり、山口県立大学創立七〇周年記念事業の収支決算見込みを報告させていただきます。ご支援ありがとうございました。

創立70周年記念事業収支決算見込み

区分	予算額(A)	決算額(B)	増減(B-A)
教職員募金	2,500,000	3,360,000	860,000
桜園会会員募金	2,000,000	7,070,000	5,070,000
教育後援会助成金	1,000,000	3,000,000	2,000,000
県立大学繰出金	4,500,000	4,500,000	0
60周年記念事業剰余金	3,000,000	3,000,000	0
雑収入	0	50,000	50,000
合計	13,000,000	20,980,000	7,980,000

区分	予算額(A)	決算額(B)	増減(B-A)
記念式典	4,300,000	3,862,054	△437,946
記念グッズ制作	1,500,000	1,457,048	△42,952
学生活動支援	1,000,000	1,000,000	0
特別公開講座等	2,700,000	1,843,002	△856,998
次期記念誌発行等準備	500,000	500,000	0
新設基金への繰入	3,000,000	3,000,000	0
合計	13,000,000	11,662,104	△1,337,896

※ 収入(20,980,000円)から支出(11,662,104円)を差し引いた残額(9,317,896円)は、新しく設置した「さくらの森夢基金」に繰り入れさせていただきます。

人事異動

■退職
 相原 次男 国際文化学部教授
 猪又 徹 国際文化学部特任教員
 野瀬 春次 看護栄養学部教授
 廣坂久美子 看護栄養学部講師
 原田 良子 看護栄養学部助手
 橋本夜夏子 看護栄養学部特任教員
 新井 哲夫 共通教育機構教授

■新任
 新藤 優子 国際文化学部准教授
 齊藤 理 国際文化学部准教授
 水藤 昌彦 社会福祉学部准教授
 山下 満枝 看護栄養学部教授
 堀河 美和 看護栄養学部助教
 三上 奈々 看護栄養学部助手
 家入 裕子 看護研修センター主任教員

■事務局職員転出
 澤田 満 萩看護学校
 野村 孝美 総務部給与厚生課
 松田 一宏 商工労働部新産業振興課
 末貞 妙子 退職

■事務局職員転入(・法人採用)
 ・河内麻沙美 財務グループ主任
 ・伊藤 幸代 教務入試グループリーダー
 ・石井 竜也 総務グループリーダー
 ・山本 信嗣 総務グループ主任
 ・川村 和弘 人事グループ主査
 ・梅田 辰徳 附属地域共生センター主事

加登田社会福祉学部長の司会進行のもと、最初に江里名誉会長と福田会長が挨拶。お祝いの大型ケーキが登場し、卒業生を代表して六名のお名前

七〇周年記念式典、記念講演が終了した後、卒業生にはホームカミングデーというプレゼントが待っていました。真紅の布地に白字で大学ロゴを染め抜いた法被を身に付けた大学生に迎えられ、軽食や飲み物のサービスを受けました。最初は少し緊張しましたが、すぐに学食はアットホームな雰囲気になりました。

展示コーナーでは最近の大学生の活動についての写真や卒業論集などを見ることができ、歴代の卒業アルバムも並びました。思い出深い写真を集めたスライドショーでは懐かしい笑顔に出会い、笑い声もこぼれました。

ホームカミングデー・大学との情報交換会

(昭和56年児童文化卒 岩野雅子)
 意見交換が行われました。

が呼ばれ、記憶を辿りつつ、江里名誉会長からロウソクに灯す火を受け取りました。最後は大学と桜園会のさらなる発展の祈りを込めて、七名で吹き消しました。チョコレートファウンテンの甘い香りも、いつまでも会場に漂っていました。

引き続き、大学との情報交換会が開かれ、大学の近況報告の後、理事や支部長から意見や質問が寄せられました。最大の関心事はキャンパス移転と、移転後の跡地利用の可能性。学園都市として夢のある宮野のイメージを描き、市や地域と連携して積極的に推進してほしいという声があがりました。また、経済不況下の学生支援や、最近の学生の実践的スキル低下への対策、東日本大震災復興支援についても質問があり、

支えて学ぶ

共通教育機構長
松田 理

本学では一年生の必修科目として「基礎セミナーⅠ」(前期)、「基礎セミナーⅡ」(後期)を開講しております。これらの科目は、大学で学ぶための基礎的な知識と技術を一年生に修得させることを目的としておりますが、今年度は、国体に続いて山口県で開催された全国障害者スポーツ大会に焦点を絞って授業を行いました。前期の「基礎セミナーⅠ」では共生社会というテーマを掲げ、多様な条件を持つ人々と共に生きることについての理論と技術を学び、後期の「基礎セミナーⅡ」では一年生全員がボランティアとして全国障害者スポーツ大会に参加して、前期に学んだ理論と技術を実践いたしました。学生たちは実際に障害者の方々と共に活動することで、ささやかながらも、社会を支えることのできる自分の姿を発見し、三年後に社会人として飛び立つための助走を始めたところです。

国体を終えて

国際文化学部教授
田村 洋

式典総合プロデューサーに任命され五年の歳月を送ってきた。国体のオープニングを飾る総合開会式や大会を締めくくる総合閉会式、開催県が趣向を凝らした演出で、歴史や文化、食、自然など山口県の魅力を全国にアピール、式典は何千人もの人が参加する大規模のもの、天皇后をお迎えし、万全の準備が要求される大会である。その国体に県大からも、演技出演、手話



通訳、ボランティア、他、沢山の学生が参加し、他県の方々と交流、楽しい思い出をつくった。

五十年に一度の国体、大会当日、二万人の観客の歓声に涙した。人間は何と美しいのだろうと感じながら。

東日本大震災

復興支援活動に参加して

松崎 佳奈

震災から二カ月後となる五月と六月に、岩手県と宮城県で活動を行いました。テレビなどを通じて被災地の状況は知っていましたが、実際には衝撃で言葉になりませんでした。一回目の活動で、がれき撤去、避難所巡回、イベントの手伝いなどをしました。しかし、準備期間が短かったため、言われたことをやるだけで、正直あまり役に立てませんでした。二回目は小学校での交流、ニーズの聞き取り、避難所での足湯・ハンドマッサージ・抹茶接待、よさこい関係者の訪問などを行いました。

た。一回目の活動を踏まえて、自分たちには何ができるかを話し合い、準備して行ったため、充実した活動を行なうことができました。私達になにができるのだろうかと不安でしたが、話を聞いたりするなど、小さなことでも喜んでいただけるということがわかりました。東北の方々は本当に前向きで、私たちのほうが逆に元気を頂きました。これで活動を終わらせるのではなく、継続していきたいと思えます。

(国際文化学科3年)

山口県立大学

災害ボランティア実行委員会

藤井 友里

「ぶちボラYP勇気」は、三月十一日の東日本大震災の発生後に立ち上がった災害ボランティア実行委員会です。

以前から交流のあった岩手県立大学と連携し、メッセージうちわや手作りシシュウの送付、現地でのハンドトリートメントによる癒しの提供、

そして勉強会や壁新聞の作成、地域のイベントへの参加、防災や災害に関するフォーラムの開催など山口でできる活動を行っています。

震災から月日が経ち、ニュースや募金箱の減少など震災の風化が起きていますが、日頃から防災意識を持つことは大切です。そのため現在は、地域のサロンでの啓発活動を計画しています。これからも学内外への広報・啓発活動を行い、防災意識を高めたいと思っています。

(社会福祉3年)



平成23年度 桜園会総会開催

第六七回桜園会総会が、平成二十三年五月二十一日(日)ホテルニュータナカにおいて、一六四名の出席を得て開催されました。

福田百合子桜園会会長より、「大学での七〇周年記念行事において、学長先生から夢と理想のプレゼントがあった。」と挨拶があり、名誉会長江里健輔学長から「学生たちが良い環境で学問に励めるようキャンパス移転の目安が見ついたが、桜園会員皆様のお力添えをいただきました。母性愛は何も要求しないものであるので、母校に無償の愛をお願いしたい。」とのお言葉をいただきました。



続いて、食文化研究家で昭和三十年に山口女子短期大学家政科(食物専攻)を卒業された江後迪子先生の「大内氏の食・毛利氏の食」と題したエネルギーシユな講演。

古文書の江戸時代のお菓子の値段表を見たことで、南蛮菓子へ興味を湧き、五十代後半から古文書を読み始めたことから、先生の研究活動は開始。五百年前、毛利氏が「大内氏を頼つてやってきた時の献立や、江戸初期の家督相続や婚礼の際の献立、国目付が来た時のもてなしなどを古文書によって研究され、昨年、菜香亭で当時の献立を再現されました。当時は、砂糖や醤油などの調味料がなかったため、再現時の味付けが大変だったそうです。

また、外郎の歴史についても話され、千七百年代には、薬としての外郎と菓子としての外郎があり、小田原の薬としての外郎屋が山口に来て看板を蹴ったとの逸話もあるようです。そして、地域おこしに昔の食の再現などの活用をしてはどうかとのご提案もありました。さらに、「福田百合子会長を

見習い、生涯現役でいきましょう。人の世話になるのではなく、人の世話ができるよう元気でありましょう。」と締めくくられました。先生は、五十代から研究を始められ、まさに生涯現役。食の紹介に留まらず、聴く者に生き方を示してください、とても楽しい学びの時間となりました。

レクリエーションは、県立大吹奏楽団BLAZEによる演奏が行われ、大いに盛り上がりしました。大学の先輩であり人生の先輩方とのひとときは、とてもエネルギーシユであり、母校愛に包まれていました。(平成14年社会福祉卒 林記)

平成24年度 桜園会総会のご案内

■日時 平成24年5月20日(日)
午前10時～午後2時

■場所 ホテルニュータナカ
山口市湯田温泉2-6-24
TEL083(923)1313

■講演 (演題)
「大学生と観光まちづくり」
(講師)
国際化学部
文化創造学科准教授
齋藤 理 先生

■会費 5,000円
当番幹事はS 41・46・51・56・61
H 3・8・13・18・23年
卒業のクラス幹事さんです

*出席ご希望の方は、5月9日(水)までに同窓会事務局までお知らせください。

平成22年度桜園会会計収支決算書 H23.4.15(単位:円)

科	目	22年度決算額
収入	繰越金	4,276,888
経常	本部入会金	2,040,000
業務	事業負担金	5,122,971
雑	収入	750,000
特別	会計より繰入	6,987
合	計	1,000,000
		13,196,846

支	出	
総	会	890,671
会	議	395,804
支	部	1,037,200
会	報	1,334,145
公	開	212,632
桜	園	500,800
桜	の	44,911
入	会	333,040
旅	費	1,275,205
通	信	106,633
印	刷	0
事	務	2,649,768
退	職	200,000
情	報	1,281,655
備	品	522,896
消	耗	168,186
雑	費	94,450
予	備	0
合	計	11,047,996
次	年	2,148,850

事務局からのお願い

同窓会の運営は皆さんの会費で成り立っております。会費の納入にご協力下さい。

- ◆桜園会本部経常会費納入(年間千円)をお願いいたします。
*65歳以上の会員で希望される方は終身会員になることができます。終身会費は一括払いで1万5千円です。(H23.5.23改定)
- ◆振込用紙には会員番号(封筒の宛名シール右下)・卒業年・科・勤務先・送金明細・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)を必ずお書き下さい。コンピューター処理を行いますので、郵便番号及び住所(番地、建物名、部屋番号)を正確にご記入下さい。
*住所、勤務先の変更、改姓の際もお知らせ下さい。
- ◆ご連絡・ご質問の窓口
山口県立大学同窓会桜園会事務局
住 所 〒753-8502 山口市桜島3-2-1
TEL&FAX 083(925)7485(職員在室日は水・金曜日10時～17時)
E-mail ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp
山口県立大学のホームページからもアクセスできます。
(<http://www.yamaguchi-pu.ac.jp>)

*桜園会では、個人情報保護法を遵守し、取り扱いについては慎重に対応してまいります。

山口県立大学創立七十周年記念事業
第三十二回山口県立大学同窓会桜園会公開講座

「言葉と人間」 金田一秀穂 氏

平成二十三年十二月二十二日、桜園会館において本学客員教授である、金田一先生の講演会が開催されました。

開会に先立ち江里学長は、「今年五月、創立七十周年の式典を開催したが、今回もその二環で県民の皆さんに地域貢献型大学としての還元を行うものです」と、あいさつされました。

金田一先生と云えば、国語辞典の京助先生から数えて三代目。親の七光り、とご自分を紹介されましたが、先代までのお二人とは幾分専門分野が異なり、外国人に日本語を教えるための「日本語」「日本語学」を研究テーマにされているとのことでした。

「言葉」とは人に情報を伝え、コミュニケーションの道具ですが、果たして情報、知識等を伝える道具でしかないのでしょうか。

「元氣？」と聞かれれば、「元氣」と答えます。そこでは何ら新しい情報を伝えあつてはいません。むしろ「確認」しあっているに過ぎませ

んが、この確認をするという意味で、意味があるのです。

恋人同士の、例えば「月がきれいですね。」という会話も同様で、一緒にいる時間が相手にとつて楽しく心地よいものとなつていくことを、お互い確認しあいます。

人類の起源のホモサピエンスは、二十万年前のアフリカに現れましたが、そのうちの十五万年は言葉を持たず、鳥などと同じく鳴(泣)き声(アナログ)によつてコミュニケーションを持っていたそうです。

五万年前になると、人類は「言葉」(記号言語)という巨大なコンピュータを作り出しました。

この記号言語としての「言葉」

によつて他の人の知識も入ることになり、私たちがの祖先



は画期的なコミュニケーション能力を持つようになったと言います。

現在は、どうしても記号言語に頼りがちですが、十五万年もの間コミュニケーションの役目をしていた泣き声のようなもの——記号言語化できないアナログ的なもの——の大切さを認識することも大事ではないか、と問いかけられました。

「言葉と人間」という、少し難しいテーマでしたが、先生は言葉の起源、言葉の果たす役割などをわかりやすく、折々笑いを含みながら話されて、楽しい講演会となりました。

(昭和37年国文卒 矢儀記)

「やまぐち食べちやる隊 (地産地食プロジェクト) について

栄養学科 山崎あかね

本学栄養学科の食育系課外活動の一つである「やまぐち食べちやる隊(地産地食プロジェクト)」について紹介させていただきます。

地産地消プロジェクトは、平成十九年度に学生食堂のメニューや環境等の改善を目的にランチプロジェクトとして発足し、これ

まで地域の食材を利用したメニュー

開発やその他の学生食堂改善に向けて活動してきました。平成二十二年からは、学生食堂の委託業者様の協力を得て、前期・後期にそれぞれ五日間ずつ「地産地消フェア」を実施し、期間中に学生食堂にて地産地消ランチセット(四十食限定、一食三百八十円)を提供し、喫食者に対して地産地消への関心と理解を深める活動を行ってきました。

平成二十二年度には、地産地消の意味を前面に出すためにプロジェクトの名称を「やまぐち食べちやる隊(愛称:ちやる隊)」と改称し現在に至ります。メンバーは、三年生を中心に一・三年生で構成されており、学年を越えた交流にもつながっています。

多忙な学生生活の中でメンバー全員が集まることは難しいのですが、限られた時間の中でメニューの考案や試作、学生食堂に設置する媒体や広報のためのポスター作成などの作業をしています。

今年度も前期・後期に「地産地消フェア」を開催しましたので、提供したメニューの一部を紹介し

ます。前期には「瓦そば」や「長州鶏とたまげなすの甘酢炒め」、後期には「フグと野菜の天井」、「はなつこりーと鶏肉のピリ辛炒め」や「岩国れんこん入りハンバーグ」など、郷土料理や山口を代表する野菜を使用した料理を栄養バランスも考慮して提供しました。

また、今年度は、ちやる隊オリジナルレシピ「ちやる飯」も登場しました。学生食堂は一般の方でも利用できますので、ぜひ一度「地産地消フェア」の期間に学生が考えた料理を味わいにお越しください。

さらに、今年度は活動の場を広げ、周南市のやまいもまつりさんと自然薯を使用した丼物レシピの共同開発や、同じく周南市の須金の里ひまわり会さんとの須金の梨を使用したお菓子のレシピ開発などにも取り組んでいます。今後とも充実した活動が展開していけるよう応援して頂けますと幸いです。

(平成17年健康福祉修了)



第十一回桜圃会賞 受賞報告

第11回
桜圃会賞

桜圃会功労賞を
受賞して

坪根タツ子

此度は身に余る大きな賞を戴き、大変光栄に思うと共に、私ごとき者に今？と恐縮もいたしております。

桜圃会福岡支部の発足は遅く、入会者少数で結成した当時のこと等、懐かしく思い出されます。

私は、第二期生として山口女專に入学いたしました。検定試験の為に、桜井、中沢、他先生方のご指導を頂きましたこと、昨日のことのように覚えております。卒業後は田舎の母校で、戦後は福岡の特殊(聾)学校で、三十八年間勤務させて頂いていただきました。



数年前、膝の手術後のアクションにより、生死の間を彷徨しましたが生還、現在車椅子の生活になっております。幸い神様が両手を残して下さいだったので、山口女專で勉強させて頂いたので、技を生かし、現在入所中のホームの環境整理等のお手伝いや、小物作りをしています。小物作りを通じ、ホーム隣りの支援学校の生徒さん達との交流も持っております。

最後になりましたが、母校の益々のご発展と桜圃会の隆盛を祈念致しております。
(昭和19年裁縫科卒)

第11回
桜圃会賞

奨励賞を受賞して

点字サークルぶちぼあん

田村 未希

この度、桜圃会奨励賞を受賞しました、点字サークルぶちぼあんです。このような賞をいただくことができ、誠に嬉しく思います。

点字はフランスのルイ・ブライユによって考案され、「ぶちぼあん」はフランス語で「小さな点」という意味です。私たちは、点



字や視覚障害について理解を深めていきながら、学生や地域の方々に点字や視覚障害を知ってもらうための活動、大学の点字の講義のサポートや山口市内の小中学校で、点字学習のボランティアなどを行っています。

今年度は、山口国体と障害者スポーツ大会を機会に、地域の居酒屋やホテルのメニュー等を点訳し、「点字メニュー」を作るという活動を新たにしてみました。戸惑いながらの制作でしたが、そのメニューを通じて多くの方に点字や視覚障害を知っていただくきっかけになれば、と思っております。

今後もこれまでの経験を活かしながら、自分たちの学びを深めていくとともに、たくさんの方々に点字や視覚障害を知っ

てもらえるよう、学内や地域に出での活動を積極的に行いたいと思っております。これからも温かく見守っていただければ幸いです。ありがとうございました。
(社会福祉3年)

真鍋さんありがとう
シンガポールクラス会

高津 優子

「還暦にハワイで会おう」夢多き二十代に飛び出た合言葉を中心に、仕事に家庭に子育てにと全国津々浦々で紡いできた山口女子短大食物科の心意気。

卒業後七年目に、真鍋さん(昨年没)の呼びかけで「誌上クラス会」が誕生。彼女ならではの発想力。紙面に弾ける友の活躍等、今もこの冊子は皆の宝物です。

この後、クラス会が生まれ、学舎に咲きほころぶあじさいを想い「紫陽会」と命名。五年ごとに各地区担当、熱き思いの山口市では数回。教室での調理器具は不揃



(昭和39年食物卒)

いでも、素晴らしい先生方に、実習を通して人としての生き方も学びました。湯の香で癒してくれた十五年後の別府、世界遺産の奈良、東京、箱根、鎌倉、火の国阿蘇でのクラス会。いつも二十人前後の出席。待ちに待った還暦には、ハワイをシンガポール四日間に変更しましたが、修学旅行さながらに楽しい楽しい十六人の旅となり、夢の合言葉は実現をみたのです。

今、たおやかに人生を創ってこられた喜び、分かちあえる幸せを感じています。真鍋さん発案の誌上クラス会の絆は生き続け、還暦を過ぎてからは三年おきとなり、鎌倉の次は二年後、大分での古希を祝うクラス会が今から楽しみに待たれます。

海外からもできること

竹本 悦子

三月十一日。インターネット・テレビから流れる映像を見て「これは現実におきていることなのか」と信じられない気持ちでした。

その日から「海外にいてもできること」を模索し始めました。そして思いついたのが日本にはない「紙パック入り調整済みミルク」。常温で長期保存でき、パックを開ければそのまま赤ちゃんにミルクをあげることがができます。フィンランドに住む日本人のお母さん仲間と共に、ネットを使って賛同者を集め、その二週間後に石巻市に二〇〇〇パック。それから必要とされている被災地にピンポイントで合計七回、二万四千パックをお届けしました。本来乳製品は輸入規制が厳しいのですが、緊急救援物資として、簡易手続きで輸入することができました。

ミルク支援で知り合った数多くの被災地支援をされているボランティアの方から送られてくる情報は、一三カ月たつても厳しいものが多く、日本から離れている私たちは常に「何もできない」「気持ちで一杯でした。」

そんな時、あるボランティアの方から「本物のサンタを子どもたちに連れてきてほしい」というメールを戴いたのをきっかけに、七月、フィンランドからお土産を沢山持ったサンタさんが避難所・保育所を中心に訪問するとい

う企画が実現しました。震災後から頑張りすぎている子どもたちに、一足早いサンタさんご会いに来ることで、また夢・希望を持つてもらいたいと思ったのです。その後、震災後に内気だった子どもが、サンタさんの前では手を挙げて目を輝かせて質問していたと、お母様が大変喜ばれていたというエピソードを聞きました。

震災からもうすぐ十ヶ月ですが、被災地の状況はまだまだ厳しいです。自分にできる範囲の小さな支援を少しずつですが続けていきたいと思っています。

(平成14年社会福祉卒)



私の海外生活

大田 舞



何を話しているのか分からない。伝えたいことがあるけれどそれをどう言えばいいのか分からない。九年前はそこからのスタートでした。

私にとって初めての海外となった「フィンランド」二〇〇三年に大学院国際文化学研究所に入學してからその六ヶ月後、フィンランド国立芸術大学大学院(現・アールト大学)への留学が決まり、何もかもが新しく、分からないことばかりの海外生活が始まりました。

フィンランド語と英語の行き交う中で、「単語や文法が正確ではないかも」という思いから、周りの人の話している輪の中でおとなしく聞いているのが精一杯でした。日常の生活に少し慣れてきた頃、自分からは多くを話せなくても、交流の場に毎日出向くようになりました。少しずつ親しい友達ができるようになると、「相手がどんなことを思っているのか知りたい、自分のことを分かってもらいたい」と思うようになり、話す事に積極的になりました。私のつたない英語をちゃんと聞いてくれて、たくさん話しかけてくれる人達。言葉のコミュニケーションは十分ではなくても心の通い合える親友ができたことは私にとって大きな変化と自信に繋がりました。

現在はフィンランドでデザイナーとして働いています。昔の自分と違って、積極的に対話を楽しみながら仕事をしている自身の変化を嬉しく思います。私とフィンランドを結び付けて下さった、水谷教授と井生教授には本当に感謝しています。フィンランドは沢山の自然に囲まれた素敵な国なので、みなさんも是非いらしてください！

(平成15年環境デザイン卒)

—新刊紹介—

「美人画抄—美匠

土光洋子の世界—」

土光洋子 著(昭和32年児童卒)

丸善出版(二、八〇〇円+税)



謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

◆教職員

旧職	吉岡 敬恭	H19.4.21
旧職	大田 修	H20.6.18
旧教	目加田サクラ	H22.12.20
現教	斎藤 美麿	H23.2.7

◆会員

S20家事	安光 昌子	H20.8.28
S48国文	江本美恵子	H22.6.27
S27被服	柳井 豊子	H22.9.8
S25生活	青見千恵子	H22.9.9
S31被服	稲田 文枝	H22.11.15
H7生活デザイン	石崎 直子	H22.11.17
S18家事	伴 梅子	H22.12.5
S41被服	池田 浩子	H23.1.1
S18家事	宮本 廣子	H23.2.2
S23育児	小倉 久子	H23.2
S27被服	山口 光子	H23.3.3
S39食物	真鍋由紀子	H23.3.13
S30食物	研井 湜子	H23.4.4
S36保育	城 菊子	H23.5.26
S20家事	角野智恵子	H23.6.3
S26国文	西島志津江	H23.6
S27被服	原田キクノ	H23.6
H8国文	平岡ゆう子	H23.8.26
S18家事	藤川 久	H23.10.14
S26被服	末村 節子	H23.10.16
S35保育	福田紀久恵	



東海支部

いつまでも

東海支部 蔵重 文子

東日本大震災から丁度半年後の九月十二日、第二十七回東海支部総会を開催致しました。名古屋駅近くの和風レストランに福田百合子先生、相本艶子副会長をお迎えしての楽しい総会となりました。

相本副会長はお若いから当然としても、福田先生のパワーには出席者一同、ア然、ガク然、ポウ然。東海地方ではかなり有名な御在所岳という山に登られたとのお話。ロープウェイもある事だと聞いていたら、歩いて登られた由、座が騒然となりました。ロープウェイで登ってもきつかったと言われる人がいらっしやいましたのに……。

支部総会には一人でも多くの出席を願っています。その為には、やはり、楽しく和気あいあい、アー来て良かった。又来年も来ようと思っただけのようにしなければと思っっています。又誰もが、山口県の様子、母校のニュースを知りたいと思っっています。本部総会に出席して、総会の様子、母校の現状を報告させていただくのも大切な一と思っっています。

第三十回目の東海支部総会に

向け、多くの会員の方々、又若い会員の方々が参加していただけるよう、取り組んでいかなければと思っっています。

(昭和38年国文卒)



いつも元気をいただいて

小野田支部 通山 京子

六月二十六日(日)、レストランソルポニエンテにて、小野田支部総会を開催しました。

本部から、宗内恵美子理事をお迎えし、まずは目の前に美しい海が広がるレストランで昼食。その後、総会と近況報告。仕事のこと、地域での活動のこと、震災後東北へ旅行された時のこと、等々、おひとりおひとりの笑顔を交えたお話にたくさんさんのエネルギーをいただきました。

宗内理事からは、大学の近況を話していただき、七十年の歴史の重さを感じるとともに、新しく発展し続ける県立大学に拍手！でした。

午後からは、近くのきらら工房でサンドブラスト体験に挑戦しました。

好きな絵をカッターで切り抜きガラスのお皿やコップに貼り付けていく下絵作りは、楽しくもあり、難しくもあり。和気あいあいのうちにおしゃべりしながら……が、途中からは真剣そのもの。「ああ、切れちゃったあ。」という悲しい声。「よしっ」という満足げな声。しばし女子大生に。

最後に、細かい砂を吹き付けることで下絵が浮き彫りとなり完成。一つひとつ今日の思い出にと、持ち帰ることができました。

今後楽しい活動を続け、輪を広げていきたいと思っっています。

(昭和56年国文卒)



〈平成23年度支部会開催報告〉

開催日	支部名	本部からの出席
23年 4月24日	山口支部	江里健輔学長/田中マキ子先生 福田百合子会長
23年 6月 5日	福岡支部	福田百合子会長
23年 6月11日	関東支部	福田百合子会長
23年 6月19日	長門支部 萩支部	福田百合子先生/国広勝代理事 安光裕子理事
23年 6月19日	近畿支部	田村 洋先生/土田敏子理事
23年 6月26日	小野田支部	宗内恵美子理事
23年 6月26日	下関支部	福田百合子先生/小橋圭介理事
23年 7月 3日	宇部支部	田村 洋先生/福田百合子会長
23年 9月11日	東海支部	福田百合子先生/相本艶子副会長
23年11月 5日	下松支部	福田百合子先生/土田敏子理事
24年 2月 4日	徳山支部	福田百合子先生
24年 3月 3日	北九州支部	

桜園会支部リスト

(平成23年11月現在)

支部名	支部長名	支部会数(名)
関東	村田 純子(食物50)	845
東海	蔵重 文子(国文38)	143
近畿	赤木 絹子(食物45)	656
広島	松原 正美(国文33)	629
四国	村松 幸子(食物35)	297
北九州	岡本 浪江(食物42)	461
福岡	宗野 淑(被服39)	469
佐賀	久保由美子(食物49)	135
大分	栗屋 文世(国文44)	268
岩国	若林 光江(国文42)	241
柳井	西村 敦子(被服38)	228
下松	清木 秩子(国文33)	328
徳山	磯辺 治代(保育43)	376
防府	神山 直子(国文57)	477
山口	梅地 一枝(食物41)	1,437
萩	藤井 郁子(国文47)	168
長門	中澤 允子(被服36)	130
宇部	木下万里子(食物45)	813
小野田	通山 京子(国文56)	180
下関	来見田武子(保育46)	490

編集後記

母校も、昨年創立七十周年を迎え、四月からは、独立行政法人化後、第二期中期計画に入ります。

昨年三月の東日本大震災、十月の山口国体開催の際には、多くの在学生が自発的にボランティア活動に参加、ひたむきな若力が伝わってきました。同窓生の皆様の母校への熱い思い、相互の深い絆。いつ迄も誇りに思える母校として、更なる充実、発展を皆様と共に願っています。

(熊本記)